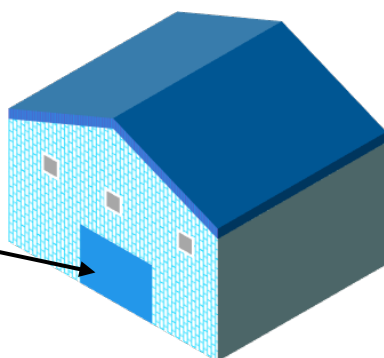


玄米貯蔵倉庫におけるコクゾウムシのモニタリングによる発生状況の把握

成果の特徴

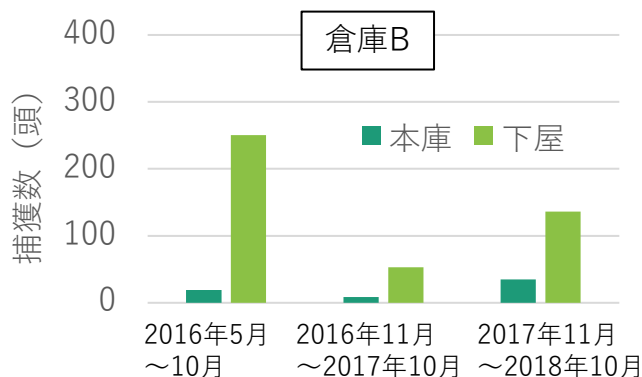
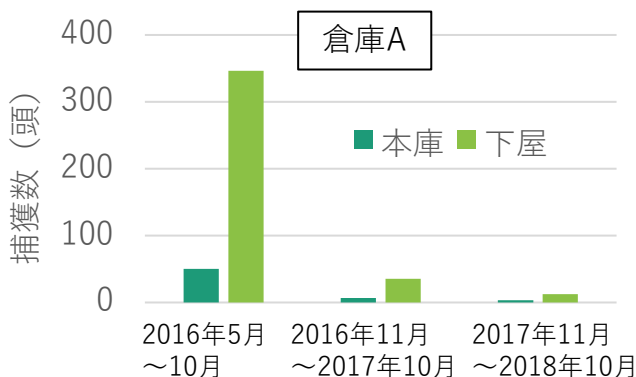
- 穀物貯蔵倉庫でコクゾウムシを中心とした貯蔵食品害虫の発生がみられます。
- 清掃等の徹底による倉庫の管理の向上により、害虫の発生量は減少しますが、その程度は倉庫によって差があります。
- フェロモントラップを用いた調査を行って傾向を把握する必要があります。

成果の内容



コクゾウムシ成虫

倉庫の本庫（低温部）と下屋（仮置き・荷捌きスペース）にフェロモントラップを設置して、コクゾウムシ捕獲数をモニタリング



各期間ごとのコクゾウムシ捕獲数の合計。倉庫Aでは捕獲数の減少が顕著ですが、倉庫Bでは不明瞭です。

成果の活用

本研究成果は穀物倉庫におけるコクゾウムシの発生量をモニタリングし、倉庫管理を向上させる際に利用可能です。

関連論文

今村ら（2020）穀物貯蔵低温倉庫におけるフェロモントラップによるコクゾウムシ成虫の捕獲調査．都市有害生物管理，10: 1-7.